



みんなで応援しよう！東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会



研修生 (帰国)編

常陸大宮市の皆さん ありがとうございました！
パラオ共和国研修生2人が、新型コロナウイルスの影響拡大により急遽帰国！

パラオ共和国研修生のケネリーさんとシェナさんが、新型コロナウイルスの影響拡大により、予定より早く7月14日に日本を出国しました。

2人は、昨年9月に来日し、日本語学習や市の文化体験のほか、本市のホストタウン交流事業のサポートをするとともにイベント等を通して、市内外の皆さんと積極的な交流をしてきました。また、彼ら研修生の活動は新聞やテレビなどに数多く取り上げられ、本市を広くPRしてくれました。これらの活動実績に対し、7月10日に開催された送別セレモニーでは鈴木市長から感謝状が授与され、シェナさんに「常陸大宮国際交流大使」が委嘱されました(ケネリーさんは前回研修終了時委嘱済)。コロナ禍による研修の2ヶ月短縮は、2人にとって心残りとなりましたが、帰国後もパラオと常陸大宮市をつなぐ友好の懸け橋として活躍されることが期待されています。



▲研修生から最後のあいさつ(市役所正面玄関前)



▲鈴木市長から感謝状を受ける研修生(7月10日送別セレモニーの際)



シェナ・セゲバオさん

「常陸大宮市の皆さん、10ヶ月間大変お世話になりました。オリンピックが来年に延期となったことはとても残念です。私は、常陸大宮市で見た景色や経験したことを絶対に忘れません。パラオに帰りますが、パラオの人たちにホストタウン常陸大宮の魅力が私ができる方法で伝え、そして、来年もう一度、この常陸大宮市に戻ってきて、皆さんと一緒にパラオ選手を応援したいです。Kabong(ガボン) Palau & Hitachiomiya! ※Kabongはパラオ語で「がんばれ」の意味です。」



ケネリー・レケメルさん

「今回で2回目の研修となりましたが、更に多くの体験や勉強をさせていただき本当に感謝しています。私は、市内で皆さんに会うと「ケネリー！」と気軽に声を掛けてくれたことがとてもうれしかったです。この研修で得た知識と経験を今後のホストタウン交流事業に活かし、パラオと常陸大宮市の橋渡し役になりたいです。本当にありがとうございました！ Sulang(スーラン)※パラオ語でありがとうの意味です。」

7月14日に出国後、7月31日に無事、パラオに帰国しました。

本多美月主事(元JICA海外協力隊:パラオ陸上チームコーチ)が
小瀬高等学校生徒に国際理解や挑戦する大切さを伝える！

昨年9月から、本市東京オリパラ推進室に勤務する本多美月主事(元JICA海外協力隊:パラオ陸上チームコーチ)が、「パラオ共和国での2年間」と題し、小瀬高等学校生徒1学年25名に国際理解や国際的な視野を広げることを目的に授業を行いました。「スポーツがとにかく好き！」という自己紹介の後、「自分が今いる世界があたり前ではなく、スポーツで世の中を元気にしたい。そして、日本で開催される東京オリンピックに携わりたい！」という気持ちが自分を奮い立たせ踏み出すことができた」とJICA海外協力隊に応募した動機を話しました。また、現地でのホストファミリーとの生活のほか、パラオ陸上チームのコーチとして活動した取組等を、熱意あふれる言葉で生徒に伝えました。



▲パラオの2年間について語る本多主事(右端)



▲真剣に聴き入る小瀬高等学校生徒の皆さん

授業の中では、新型コロナウイルスの影響拡大で急遽帰国となったパラオ共和国研修生のケネリーさんとシェナさんが動画(録画)で出演し、パラオの高校生活や放課後の過ごし方等を英語で紹介したほか、一時隔離滞在中のグアムでのホテル内の様子を生徒に説明しました。

グループ討議では「発展途上国と聞いてどう思うか」をテーマに話し合い、生徒からの「治安が悪い」等のマイナスイメージの意見に対し本多主事からは、「世界の国・人がそれぞれの価値観でプライド(誇り)を持っているからこそお互いを尊重すべきであり、実際に体験して初めて感じるものがたくさんあった」と語りました。最後に、2年間の協力隊経験から得た「一歩踏み出す勇気を持って、いろいろなことにチャレンジすること」「原動力となる自分の好きなことを大切にすること」を伝えるとともに、「ホストタウン交流をみんなで盛り上げていきましょう！」と交流事業への参加を呼びかけ、授業を締めくくりました。

授業を終えた生徒からは、「本多さんや研修生の話を聴いてパラオをより身近に感じ、英語を勉強し覚えて、人の温かさを感じる国のパラオにいつか行ってみたい」「スポーツが好きなので、世界の国々にスポーツを伝える職業につきたい」との前向きな感想があり、本市のホストタウンの取組への理解促進につながりました。



▲パラオの高校生活について説明するシェナさん(左)とケネリーさん(右)